

日本アンダーライティング協会 第71回教育講習会 事例研究部会第2期発表

「めまい」「糖尿病と合併症」テーマに

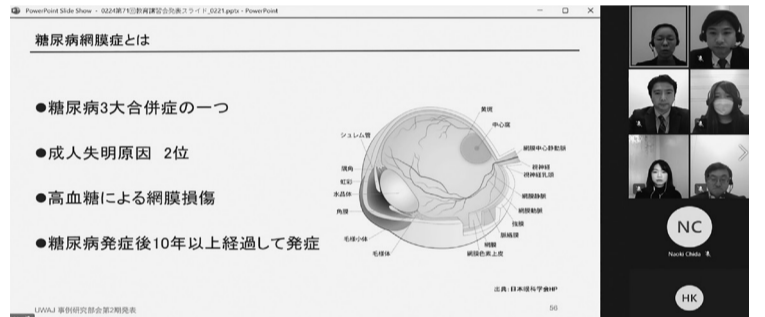
日本アンダーライティング協会は2月24日、第71回教育講習会「事例研究部会第2期発表」をオンラインで開催した。前半は「めまい」の査定アプローチ、後半は「糖尿病と合併症」の引受査定をテーマに6人が発表した。当日は134人が視聴した。

引受リスク推測の着眼点解説

前半の「めまい」の3人が発表を行った。冒頭では「めまい」に東京海上日動あんしん生命の石井隆氏、かんぼ生命の関山渚氏、プルデンシャル生命の佐藤圭佑氏が発表を行った。この段階で

ち返り査定結果を判定するとう流れで進められた。

疾病の説明として、めまいの原因として考えられる疾病は「良性発作性頭位めまい症」「メニエール病」「突発性難聴」などの末梢性のものや、「脳梗塞」などの中枢性のものがあると説明。査定において重要なのは、「脳梗塞」などの引受リスクが高い疾病につながるような告知情報がない



オンラインで開催された第71回教育講習会

病名、診断時期、入院期間、現在の状況といった基本的な告知情報に加えて、「薬剤名」「精密検査の内容」「医療機関名(受診科名)」といった付加的な情報を切り口としてアプローチする方法だとした。続いて後半の「糖尿病と合併症の引受査定」について、かんぼ生命の宮澤肇氏、三井住友海上あいおい生命の松井優子氏の3人が「事例」↓「査定上のアプローチや注意点」↓「事例」という流れで発表を行った。末梢神経障害があることを疑わせるような薬剤名が告知されていないか、眼科通院の頻度や手術の告知から糖尿病網膜症の進行度を推測できること、eGFR(推算糸球体濾過量)の数値の検査値から腎機能障害の進行を推測できることなどが、今回の発表テーマとした発表はこれまでも数多くあったが、今回は「糖尿病の合併症である「神経障害」「眼疾患」「腎症」の三

つにフォーカスした内容となり、これらの合併症が出現する順番を踏まえ考察していくという切り口で、査定者にとっては興味深い内容だった。今回取り上げられた「めまい」と「糖尿病の合併症」というテーマはジュニアの査定者にとつては難しい内容だったが、限られた告知情報から引受リスクを推測する際の着眼点や、注意点が分かりやすくまとめられており、シニア・ジュニアいずれの査定者にとつてもたいへん有意義な内容だった。(文責：オリックス生命 長岡寛昌)